

上島町の皆さん、こんにちは！
岩城地区担当ALTのエーリング・アロン・ブライアンです。

私は12歳の時からスキューバダイビングに興味があります。父と私は一緒にスキューバダイビングを習い、世界中のいろいろな場所でしてきました。そこで今月の私の記事にこのスポーツの歴史を探ることにしました。

人は何千年もの間ダイビングをしてきました。しかし明らかに大昔には現在のようなダイビングの装備はなく、ただ1呼吸の間潜るだけでした。これは「フリーダイビング」と呼ばれます。ダイバーたちは現在のように楽しみのために潜るのではなく、他の理由がありました。ダイバーたちは海底から海綿動物や真珠のようなものを集めました。当時そのようなものは手に入れることが難しく、また高価だったのです。

またこのときダイバーたちは難破船から価値のある宝物をよく引き上げました。これはとても危険な仕事でした。だから法律で次のように決められました。

○水深15m以上の難破船から引き上げられた宝物の33%はダイバーのものになる。

○水深30m以上の難破船から引き上げられた宝物の50%はダイバーのものになる。

19世紀の初めになるとダイビングヘルメットが作られました。これはダイバーと水上の空気をつなぐチューブのついた大きな金属のヘルメットでした。

しかしながらダイビングするのに問題がありました。それは水圧です。深



各地区の英会話教室

《弓削》毎週月曜日 13:30～

弓削地域交流センター第1会議室

《生名》毎週月曜日 9:00～ 生名公民館

毎週火曜日 19:30～ 生名公民館

《岩城》毎週木曜日 20:00～ 岩城総合支所庁舎

《魚島》毎週水曜日 19:30～ 魚島開発センター



く潜れば潜るほど、体に水圧がかかります。このことで表面からの空気を吸い込むことがとても難しくなります。なぜなら水が外から肺を押すからです。1メートルより深い水中でチューブを通しての空気を吸い込むことはほとんど不可能です。このためにエアタンクの空気が高圧でなければ吸うことができません。

しかしながら、このことはもう一つの問題を引き起こしました。圧力を掛けられた空気は危険になることがあります。もしあなたが空気を吸うためにエアタンクを開けたら、空気がエアタンクからあなたの肺にあまりにも強烈に入ってしまいます。そのことが肺にダメージを与えかねません。そこでダイバーにちょうどよい圧力で空気を供給するために「レギュレーター」というものが発明されました。これはスキューバスーツにつけるマウスピースです。

空気の供給をヘルメットからマウスピースにかえたことでマスクの中の空気の小部屋の圧力が自動的にコントロールされなくなりました。あなたがより深く潜れば、あなたのマスクの圧力はより低くなり、目に損害を与えることがあります。だからあなたは次のことを覚えておく必要があります。あなたのマスクの中の圧力を上げるために時々鼻で呼吸する必要があることを。あなたが鼻を覆っていないマスク（スイミングゴーグルのような）でダイビングをすることができないのはこの理由からです。

近年、注意深くそしてダイビングについてよく知っている人とするならば、ダイビングはとても安全になっています。ああ、沖縄でダイビングしたい！



こんにちは
町長です



四月十八日、上島町民の代表として園遊会に出席させていただきました。これは全国町村会から推薦を受けたもので、御支援いただいている皆様のおかげだと感謝しております。

当日は晴天に恵まれ、天皇・皇后両陛下とは皇太子様が上島町にお越しになった事があることなどをお話し、皇后様からは待っていた私達の体調を気遣うお言葉をいただき、その優しさに感動いたしました。皇太子様とは上島町弓削での思い出をお話し、塩の海運で勉強された山内先生の事も覚えていらつしやうた事に驚きました。秋篠宮様は「瀬戸内海から来ました。」とお伝えすると、「サイクリングが盛んな所ですね。」と話が弾み、その地方に関する知識の豊富さにびっくりしました。

ノーベル賞を受賞された山中教授とお話する事ができ、教授はストレス解消も兼ねてジョギングしていることもお聞きしました。私も園遊会当日の早朝、皇居一周を走っていたので、共通の話題とする事ができました。

別の場所では安倍総理御夫妻とも、愛媛県や瀬戸内の事でお話させていただきました。園遊会であっても上島町の代表として我が町のアピールができたのではないかと自負しています。改めて、このような素晴らしい機会を作っていただいた町民の皆様に感謝いたします。

上島町長 上村俊之